資料２３

附帯意見（案）

１　附帯意見とは

審議の過程において、答申の骨格となる「適正規模の維持」、「教室の過不足数」、「通学距離や時間」の観点以外にも、様々な観点からの意見があった。これらのうち、今後、教育委員会が再編を進める上で「審議会として留意してほしい事柄」を、附帯意見として整理した。

２　整理の手順

答申の骨格となる３つの観点に関する意見および個別の地域や学校に関する意見以外のうち、「審議会として留意してほしい事柄」に相当する意見について、その内容の共通性により以下の５項目に大別し、とりまとめた。

・通学時の負担について
・教育内容・教育環境について
・再編の進め方について
・保護者や地域の理解について
・地域文化について

３　附帯意見（案）

（１）通学時の負担について

子どもたちの発達段階や地理的条件、気象条件などによって、子どもたちが負担と感じる通学距離や通学時間は異なるものと考える。一方、スクールバスのルートや本数といった運行にあたっての工夫、学校選択制とは別に近隣の小学校へ通学できるよう弾力化することなどで、通学に対する負担が緩和されることも考えられる。

学校再編を進めるにあたっては、安全・安心を第一とし、子どもたちの負担ができるだけ少なくなるような通学方法について検討し、保護者に示すよう努められたい。

（２）教育内容・教育環境について

これからを生きる子どもたちにとって、多様な考えをもつ教員や友人とふれあい、切磋琢磨できる環境を整えることは必要不可欠である。

一方、学校規模にかかわらず、学校生活に馴染めない子どもは一定数いると考えられることから、子どもたちが安心して学ぶことのできる環境を整えることも大切である。

学校再編に併せて、特色ある多様な教育環境を提供する方策についても検討されたい。

（３）再編の進め方について

学校再編は、保護者や地域の合意形成がなされるまでに相当の期間を要するものと想定できる。しかしながら、再編計画どおりの合意を目指すことでいたずらに時間を経過させてしまうことは、将来の子どもたちの教育環境を充実させるためには好ましくないと思われる。

したがって、保護者や地域の声を聞きながら、複式学級の解消を優先するなど、着実に進められたい。

（４）保護者や地域の理解について

保護者や、これから保護者になる方、そして地域の理解を得るためには、統合する場合、しない場合それぞれにおいて、教育上どのような配慮が必要となるのか、また、制約はなにかなどを示すことが肝要である。

その上で、丁寧な説明を行い、保護者等がどのように考えているのかを把握しながら、合意形成を図られたい。

（５）地域文化について

地域それぞれに固有の伝統や文化があり、学校には将来の地域の担い手を育成するという側面もある。これまでの地域固有の伝統文化を、再編後にも子どもたちに引き継いでもらえるよう、様々な取り組みについて検討するよう努められたい。

【審議に係る情報提供資料】

パブリックコメント〔資料９〕

実施期間：令和３年１０月１６日(土)～１１月１５日(月)
意見の件数：５５４件（延べ件数）
意見の概要：①通学距離について
②地域への影響について
③小規模校、少人数学級について
④障害や不登校児童生徒の受け入れについて
⑤その他

富山市議会議員からの意見〔資料１０〕

募集期間：令和３年１０月１６日(土)～１１月１５日(月)
意見の件数：９件

富山市ＰＴＡ連絡協議会によるアンケート調査結果〔資料１１〕

対　　象：富山市内の小中学生の保護者（約２７，０００名）
期　　間：令和３年９月３日(金)～９月１５日(水)
調査方法：Googleフォームによるオンライン投票
回 答 者：１,４８５名

【参考】これまでの審議における意見

（１）通学時の負担について

○小学１年生では２kmを超えると１時間以上歩くことになるため、スクールバスの対象範囲について検討が必要である。〔富山北部　学校関係者〕

○中学校において徒歩通学と自転車通学の境目はおよそ２kmであるということも踏まえ、徒歩で通学できる距離について、３kmというよりは２kmとした方が適切ではないか、考えていく必要がある。〔富山北部　学校関係者〕

○小学生にとっては大沢野小学校までのバス通学は辛いかもしれないが、中学生は体力面も発達しており、また高校へ進学すれば通学先が遠くなっていくので、発達段階ごとに通学距離を伸ばしていくのはよいのではないか。〔大沢野・細入　学識経験者〕

○富山西部地域にも共通するが、小学生の間はスクールバスで通学し、中学生になると自転車通学に切り替わることが想定される。既にスクールバス等を利用している地域も参考に、児童生徒の負担が大きくならないよう柔軟に対応されたい。〔富山東部　学識経験者〕

○羽根地区から神明小学校に向かうルートに大多数の児童が居住していると思うので、その道を通るスクールバスの運用により、通学距離の問題は解決できるのではないか。〔富山西部　ＰＴＡ代表者〕

○スクールバスを運行するとしても、ルートの選定、集合場所など、しっかりしたものを示さないと、地域の理解を得るのは難しい。〔富山西部　学識経験者〕

○現在の五福小学校に通う児童の中にも通学距離が３kmを超える児童がいることから、スクールバス等で対応する場合、どの児童をスクールバス通学の対象とするか考慮する必要がある。〔富山西部　学識経験者〕

○最も遠いと思われる粟巣野から上滝小学校まで、平常時はスクールバスで１時間以内ということだが、小見地区は雪深いので、冬期間の降雪時には平常時よりも時間がかかると思われる。〔大山　学識経験者〕

○船峅地区は猿や熊などが出没することがあるため、スクールバスを運行するとしても、安全に乗降車できるバス停を用意することや、猿や熊が出た時の対応の仕方等を十分に検討する必要がある。〔大沢野　学校関係者〕

○船峅地区は有害鳥獣の出没によりバス停から自宅までの通学路の安全面が不安なので、船峅地区の自治会とも十分に協議が必要である。〔大沢野　学識経験者〕

○羽根地区から鵜坂小学校まで（約１．７km）、有沢地区から光陽小学校まで（約１．７km）は徒歩圏内で、歩けば体力向上につながる。安全な通学路が確保できるのであれば、特殊事情として、羽根地区、有沢地区に居住する児童に通学する学校を選択できる余地があるといい。〔富山西部　学校関係者〕

○現在は針原小学校の児童の一部が新庄中学校に進学するが、針原小学校のすべての児童が北部中学校に進学することになれば、富山北部-２でも中学校進学先が分かれることはなく、児童に精神的な安定を求めることができる。一方で新庄中学校の方が近い場所に居住する児童もいるので、富山北部-２では、北部中学校と新庄中学校のどちらに進学するかを選択できるような弾力性があるとよい。〔富山北部　学校関係者〕

○再編により、他地域の小学校よりも地域生活圏内の小学校の方が通学距離が遠くなる場合も考えられ、地域生活圏と通学距離のどちらにウエイトを置くかという観点もあるとよいのではないか。〔和合　学識経験者〕

（２）教育内容・教育環境について

○高岡市国吉義務教育学校の教育は素晴らしく、地域からの評判もよく、他校区から通学したいという希望もあるようである。新しい形での併設型小中一貫教育をするのであれば、モデルになるような教育内容も、学校を造るのと同時に考えてもらいたい。〔和合　学識経験者〕

○中学校併設案がいいと思うが、小中継続した教育により何を目指すのかという姿勢についても、地域に対して丁寧に説明してほしい。〔和合　学識経験者〕

○小規模特認校である小見小学校は富山県で唯一、スキージャンプを教えている学校である。特色ある環境を残すことも検討するとよいのではないか。〔大山　ＰＴＡ代表者〕

○小中一貫校や義務教育学校の設置といった多様な学校のあり方についても検討してほしい。〔大沢野・細入　ＰＴＡ代表者〕

○目先のことを考えると、再編への拒否反応があるので、近くの学校とＩＣＴを通じて授業をするといった、つながって学び合うことの意義を説明することが大切ではないか。〔八尾・山田　学識経験者〕

○特色ある教育活動は統合後もぜひ継続してほしいが、一時的な活動の方が多く、日々の授業でよりよい教育環境を提供していくことが非常に大事であると思う。小学校の再編は慎重に進めていく必要があると思うが、中学校はできるだけ早く、色々な経験のできるより良い教育環境を提供するのがよいと思う。〔八尾・山田　学識経験者〕

○予測のつかない社会の変化に対応する資質能力を、複式学級など少人数の環境の中でどのようにして身に付けさせていくのかは、学校現場の大きな悩みでもある。また、固定した人間関係がずっと続くという中で、心に苦しみを抱えている子どももいるのではないかという心配もある。〔大沢野・細入　学校関係者〕

（３）再編の進め方について

○呉羽地域のある町内会では、小学校がなくなるのはさみしいが複式学級を解消しなければならないという意見が大半で、統合には概ね賛成のようだった。それでも地域への説明を始めてすぐに再編できるわけではなく、その間にも児童数は減少する。最終的にはすべて呉羽小学校に統合するので、呉羽小学校のキャパシティを考慮しながらではあるが、最初から呉羽小学校に統合する、あるいは、一次統合にとらわれず、各校区で丁寧に意見を聞き、合意したところから順次、呉羽小学校に統合していくといった方法もある。〔呉羽　学識経験者〕

○地元からは、古沢小学校や池多小学校は老田小学校に一次統合するのではなく、まずは複

式学級の解消を優先し呉羽小学校に統合した方がよいという意見があった。
〔呉羽　学識経験者〕

○複式学級の解消を優先するなど、統合の順序や組み合わせ等については、地元の意見を聞いて進める方がよい。〔大山　学識経験者〕

○複式学級のある学校と全学年単学級の学校では、保護者の統合に対する意識は異なると思う。一次統合の時期は違ってもいいということなので、一次統合は保護者や地域の意見を聞きながら、切実感のあるところから考えていってはどうか。〔呉羽　学校関係者〕

○上滝小学校、福沢小学校、小見小学校でそれぞれ状況が異なるので、地域や保護者の統合に対する意識も異なるのではないか。最終的なゴールを示しつつ、地域と保護者の間で統合の合意形成がなされたところから統合を進めていくのがよいと思う。
〔大山　学校関係者〕

（４）保護者や地域の理解について

○年代によって違った考え方があるので、地域の方々の意見をなるべく聞くことは大事である。〔第２回　学識経験者〕

○スクールバスは負担だと考えているのか、それとも多様な価値観、多様な学びに触れさせたいと再編を希望するのかどうかについて、保護者がどう考えているのかも注視し、地域、保護者、今後入学してくる子どもの保護者との合意形成を図ることが大事である。
〔大沢野・細入　学校関係者〕

○地域や保護者と客観的かつ丁寧に議論を重ねていくためには、再編案を示すだけではなく、統合する場合、しない場合それぞれに対して教育上どのような配慮が求められるのか、制約はあるのかなども併せて示すことが大切ではないか。〔大沢野・細入　学識経験者〕

○船峅小学校を視察した際、放課後に児童が集まる場所があり、地域の中で連携し、育んでいるものが多いという説明を受けた。今築き上げているものを大切にしながら、再編について地域の理解を得るためには、地域を労いながら丁寧な説明を重ねていくことが必要である。〔大沢野　学識経験者〕

○山田地域は、数字を見ると決断が必要かとも思うが、地域の中で子どもたちを育む実践の途上であり、将来こうなるということを具体的に示していかないと、地域の理解は得にくいのではないか。〔八尾・山田　学識経験者〕

○パブリックコメントでは、子どもが書いたと思われる意見があった。子どもの意見も聞いてはどうか。〔八尾・山田　ＰＴＡ代表者〕

○地域、学校には歴史や文化があり、住んでいる方しか分からない悩みもある。審議会の場において、一般論として発言するのはよいが、地域のことを軽々しく判断するのはよいことではない。〔第２回　学識経験者〕

（５）地域文化について

○地域の思いは数字だけでは算定できず、データだけでは判断も難しい。地域の中での生き方、将来の担い手の育成という観点からも、義務教育段階は大切な時期である。
〔第２回　学識経験者〕

○岩瀬固有の祭り等の伝統文化の子どもたちへの継承について、岩瀬小学校については統合後も配慮が必要である。〔富山北部　学校関係者〕

【答申に反映済みの意見】

通学距離について

○富山中央−１、富山中央−２について、今後も恒常的に１～２％程度の規模で、通学距離が３kmを超える児童が入学してくると考えてよいだろう。　〔富山中央　学識経験者〕

○富山中央−３（１）（２）では、通学距離が３kmを超える児童はおらず、徒歩で通学することができる。　〔富山中央　学校関係者〕

○富山中央−３（１）において、柳町小学校区の児童が奥田小学校に通う場合、線路を挟んで通学することになるが、その通学路は小学校１年生の児童が歩くことを踏まえても特に支障のないよう配慮する必要がある。　〔富山中央　学識経験者〕

○過半数の児童の通学距離が３kmを超えるのは、鵜坂地区とつながる居住誘導区域に多くの児童が住んでいること、また、五福小学校が移転したことによるのではないか。しかし、地域生活圏が異なり、大規模校になることから、鵜坂小学校と統合するのは難しい。　〔富山西部　ＰＴＡ代表者〕

○通学距離が３kmを超える児童については、丁寧な対応が求められる。　〔富山東部　学識経験者〕

○中学校併設とする和合−１では通学距離が３kmを超える児童が約５０名いるのに対し、八幡小学校に統合する和合−３では通学距離が３kmを超える児童がほとんどいない。中学校併設とする前提であれば、和合中学校を八幡小学校の場所に移設したうえで統合してはどうか。　〔和合　学識経験者〕

○呉羽地域は広いので、呉羽小学校に最終統合する場合、スクールバスの運行が必要である。　〔呉羽　学識経験者〕

普通教室数について

○少人数指導、特別支援学級、クラスの定数の変動等を想定すると、教室数には余裕があったほうがよい。　〔富山中央　学校関係者〕

○子ども会のなかには、学校の教室を借りて開設している場合もあると思うが、放課後や長期休暇の児童の居場所は引き続き確保されたい。　〔呉羽　ＰＴＡ代表者〕

○２００人という学校規模では、今後、全学年単学級とならない可能性もある。　〔富山東部　学校関係者〕

通学区域の変更について

○進学先中学校が複数に分かれる場合、寂しさなど児童の心の負担という点で不安を感じる。一方、進学先中学校が同じならば、例えば５年生から６年生になるときに統合があった場合、１年早く進学先中学校の友達と一緒に過ごして学習できる環境となり、安心感にもつながる。　〔富山中央　学校関係者〕

○全員が同じ中学校に進学することによって、中学校への所属感のようなものを感じられるように意識が変わっていくと思う。　〔富山中央　学校関係者〕

○校区が２つに分かれることについて地域の理解を得る必要がある。　〔富山中央　学校関係者〕

○審議会では合理的に考えると富山中央−３（１）（２）がよいという意見が多かったと示した上で、教室数も余裕があり、通学距離が３kmを超える児童に配慮するとして、富山中央−１を富山中央−３（１）（２）に準ずる案として複数案で提案した方が、地域の方の考えの幅が広がって理解が深まり、納得していただけるのではないか。　〔富山中央　学識経験者〕

○校区が分かれることの賛否については、地域によって温度差があると思う。　〔富山北部　学識経験者〕

中学校の統合の必要性について

○中学生は、合唱コンクールや体育大会、部活動をはじめとする集団活動での経験をとおして、互いの価値観の違いや、自分と異なる考えに出会い、対立するだけでなく折り合いをつけることの必要性を学ぶなど、社会性の育成において大事な時期である。
一方で小学生は、低学年では集団でのルールを守る態度や善悪の判断、高学年では他者への思いやりなどを、様々な体験を通じて学ぶ時期である。地域との協働の中で小学生の育成が可能であるならば、小学校を残して中学校を統合する案も考えてよいのではないか。　〔大沢野・細入　学校関係者〕

○中学生については、同世代の中で多様な意見に触れて人間関係を構築し、社会に出るための能力、例えばコミュニケーション能力を育んでいかなければならず、中学校の再編は急務である。
小学生については、地域の中で育む時間が大切である。保護者、地域へ丁寧に説明し、ご理解、ご意見をいただくというステップを踏んでいくことが妥当ではないか。　〔大沢野・細入　学識経験者〕

○一定の規模の集団の中においては、授業の中で多面的、多角的な見方や考え方に出会ったり、体育大会、合唱コンクール、部活動などで自分の役割をこなして様々な経験をしたり、目標となる子どもたちと出会ったりする可能性は高くなると思う。中学生の青年前期という発達段階を踏まえると、小学校と中学校を分けて考えるのがよいと思う。　〔八尾・山田　学校関係者〕

○小学校低学年の通学時の負担やふるさと教育という観点から、近くに学校があるのは望ましいが、一方で、技術革新により急速に変化する社会、予測困難な時代においては、小学校であっても、様々な価値観の先生や友達と協働的に学んだり活動したりすることは不可欠である。子どもたちの資質能力を育てるという観点においては再編原案は妥当であり、少子化が進むようであればいずれ、どのような教育環境を提供するべきか考えていかなければならなくなると思う。　〔八尾・山田　学校関係者〕

通学時の負担・安全確保について

○楡原中学校から大沢野中学校までの距離は約７．５kmだが、細入地域は南北に細長く、最も遠い県境の谷・中山地区から大沢野中学校までは約１８kmある。パブリックコメントでは、車酔いやトイレ、体調不良時のお迎えなどについて心配する意見も見られた。　〔大沢野・細入　学識経験者〕

○パブリックコメントでは、バスの乗車時間が長くなると、勉強時間の確保や車酔い、トイレについて不安があるという意見があった。トイレ休憩をとるなど、配慮が必要である。
〔八尾・山田　学識経験者〕

○朝日地区から速星小学校への通学に想定される通学路のうち、井田川を渡る橋には歩道がなく、付近に工場があることから交通量が多い。小学生が歩くには危険である。
〔婦中　ＰＴＡ代表者〕

小規模特認校について

○朝日小学校は平成２９年に小規模特認校となっており、他地域からこの制度を利用して児童を受け入れていることもあって児童数が増加してきており、児童数の推計から複式学級の解消も見込まれる。一定のニーズがあるのではないか。　〔婦中　ＰＴＡ代表者〕

○小規模特認校は、少人数で地域の方や地域の文化に触れ合って活動ができるというものであり、様々なニーズの子どもを受け入れる拠点校の必要性については、再編と併せて検討していくとよいのではないか。　〔婦中　学校関係者〕

【個別の学校、地域に関する意見】

○それぞれの学校間の交流が進められてきた歴史的な流れから、古沢小学校と池多小学校および寒江小学校と老田小学校は切り離せない学校である。　〔呉羽　学校関係者〕

○朝日小学校と鵜坂小学校の統合は大規模校になるため原案から除外されているが、朝日地区には鵜坂小学校に近い場所もあるので、選択肢として検討してもいいのではないか。
〔婦中　学識経験者〕